



## 令和 7 年度 前期学校評価アンケート結果報告

### 1 実施期間

令和 7 年 9 月 1 日～9 月 12 日

### 2 対象

保護者（小学部、中学部、高等部）

児童生徒（小学部、中学部、高等部）

教職員（管理職を除く全教職員）

### 3 実施方法

○保護者・・・各項目について「実現度」を 5 段階で回答

紙媒体もしくはアンケートフォームより回答

○児童生徒・・・各項目について「実現度」を 3 段階で回答

紙媒体もしくはアンケートフォームより回答

○教職員・・・各項目について「実現度」を 5 段階で回答

アンケートフォームより回答

### 4 回答数（率）

	保護者 230	児童生徒 237	教職員 165
R7 前期	161 (70%)	64 (27%)	160 (97%)
R6 前期/後期	67%/64%	25%/34%	93%/98%

※保護者数は、兄弟姉妹等の重複を除く家庭数で示す

※R6 前期/後期については、回答率のみ示す

#### 【回答方法について】

昨年度より、保護者アンケートの回答方法として紙媒体を復活させた。今年度も同様に紙での回答を受け付けた結果、回答者の約 25%が紙媒体による回答であった。また、昨年度に引き続き、アンケートフォームによる回答方法として、紙媒体に QR コードを記載し、保護者自身の端末から読み込む方法と、保護者連絡ツール「すぐーる」にアンケートフォームの URL を配信した。このように、複数の回答方法を提示したことも回答率の向上につながったと考えられる。さらに、回答期間中に「すぐーる」を通じて再度回答依頼を配信したことも、保護者の回答を促す上で効果的であった。

## 5 アンケート項目について

「令和7年度京都市立呉竹総合支援学校グランドデザイン（※下記参照）」に基づき、選択形式と自由記述でアンケートを作成した。

### 研究テーマ（2年次）

「ウェルビーイングな学校を目指して」

～新たな、自由な発想での授業研究を通して、児童生徒の

「やってみたい」「なんとかなる」「ありがとう」「自分らしく」の姿を引き出す

学校教育目標である「社会参加し、自分らしく生き生きと活動したいという児童生徒の願いの実現」を目指し、大切にしたい言葉「やってみたい」「ありがとう」「なんとかなる」「自分らしく」の視点で授業を見つめ直すことで、より魅力的な授業実践につながるのではないかと仮説のもと研究(2年次)にも引き続き取り組んでいる。今年度はその成果をより広く共有し、また教職員自身の振り返りや今後の実践にもつなげていけるよう、研究発表会を2月に開催予定である。

本校は、児童生徒数の増加に伴う教室不足の解消および校舎の老朽化への対応として、令和2年度より校舎の全面建替え工事を進めており、埋蔵文化財発掘調査を経て、令和7年10月からは第2期工事に移行し、令和9年3月の完成を目指している。

また、今年度からは新たに「地域協働プロジェクト」「地域支援プロジェクト」を発足させ、地域との連携を一層強化していけるよう取り組んでいる。活動場所の確保等ハード面の課題はあるものの、校舎完成を見据え、呉竹の子どもたちの強みを生かし、地域とともに成長できる学校づくりを目指していきたい。

令和7年度 京都市立呉竹総合支援学校 グランドデザイン  
呉竹総合支援学校再構築（令和8年度末完成）に向けた

## 「呉竹バルーン構想」Ⅱ

～くれたけから新しい風を～

学校教育目標  
社会参加し、自分らしく生き生きと活動したいという児童生徒の願いを実現する

大切にしたい4つの四子

「やってみたい」「ありがとう」  
「なんとかなる」「自分らしく」

学校経営の指針

1. 子どもも教職員も学び育つウェルビーイングな学校
2. 危機管理を徹底し、子どものいのち・人権を守りきる
3. 専門性の向上・維持を図り、地域社会での役割を果たす

令和7年度重点的取組

- 地域協働プロジェクト、地域支援プロジェクト、研究推進委員会を中心に、  
学校・地域・社会が一体となった共生社会の基盤となる学校づくりを行う
- <目標1> 授業の創意工夫や改善を図り、魅力ある教育の実践と発信を行う
- 子どもの思いや反応を丁寧に受け止め、社会性や人と関わる力を育む
  - 子どもたちの可能性を広げ、生活を豊かにするための手段として、情報端末等も適切、かつ有効に活用する
  - 子どもが何を学び、何ができるようになったのか、学んだことが何につながるのかを評価し、授業改善を行う
- <目標2> 地域連携、地域協働、地域支援の充実を図る
- センター内機能を強化し、地域の学校園、施設等への支援の充実を図る
  - ライフスタディやワークスタディでの学習を通して、共生社会の実現に向けた取組を進める
  - 地域で役割を果たす取組や交流及び共同学習の充実を図る
- <目標3> 活発な研究活動を通して働きがいをもてる
- 授業改善の主体的で活発な授業研究を通して、より良い授業づくり
  - <目標4> 働きやすさを追求し働きがいをもてる（業務改善と環境整備 学校を美しく）
  - 業務改善案を積極的に提案、検討し、組織的・効率的な業務の見直しを図る
  - 職員間のコミュニケーションの活性化を図り、風通しの良い職場、心理的安全性の高い職場をつくる

呉竹の強み

- 多様な文化を受け入れる柔軟性や寛容性
- 子どもも自由に多様な地域活動
- ICT活用、芸術系活動、赤羽活動の充実など先進的な取組、ユニークな取組
- 迅速な行動力
- 学部を超えた児童生徒のかかわり
- 行事に向かうパワー
- 学校祭（体育の部・文化の部）等の行事に向けた取組

呉竹の伸ばしたい点

- 学校力と組織力
- 小中高の連携性と連続性
- 全部署の連携と協働
- 地域への発信と協働
- 教職員の専門性、資質能力の向上
- 危機管理する力

推進する  
風を  
起こす

児童生徒  
保護者  
地域

教職員

振り返る

幸せの風

## めざす

めざす児童生徒像

- 自分の心や体を大切にすること
- 人を大切に、共に生きる
- 意欲や関心を持って主体的に活動すること
- 自分の思いや考えを伝えようとする
- 願いや夢に向かってすすむ
- 役割を担い、役に立つとする
- 自分から挨拶をする
- ルールや約束を守る

めざす教職員像

- 児童生徒の健康・安全を守る
- 児童生徒を愛し、児童生徒の人権を大切にすること
- 児童生徒の主体性を尊重すること
- 授業を大切に、熱意をもって、児童生徒を教育すること
- 自らの専門性向上をめざして日々精進すること
- 保護者や地域と連携し、他の教職員と協力しながら仕事をする
- ライフ・ワークバランスを実践すること

めざす学校像

- 生命を守り切る学校
- 児童生徒の学びを大切にすること
- 信頼される学校（保護者や地域との信頼関係を基にした、安心・安全で開かれた学校）
- 子どもや保護者、地域に夢や希望を与える学校
- 心理的安全性が高く、一人一人の力が発揮できる学校

共生社会の実現・自立と社会参加

令和7年度各部の目標（取組の重点）

小学部	中学部	高等部
<p>様々な経験を通して、興味関心をひろげるとともに、やりたいことを実現するための力を育てる</p> <p>(1)健康な身体を作る</p> <p>(2)好きなことややりたいことを見つけ広げる教育を実践する</p> <p>(3)他者とともに生きるための素地を養う</p> <p>◆進路の個別化、学部会や主任会の回数減と内容の精選、基本時間割の見直し、教材・教員の共有（呉竹教材ラボ）、業務の共有（依頼ボード、金庫後の有効活用）、年間業務の見直し（都度）新学第準備、年間指導計画作成、引継ぎ資料の検討</p>	<p>子ども一人一人の可能性を広げる</p> <p>(1)基礎的・基本的な力をさらに高める</p> <p>(2)自ら考え、自ら活動する主体的な態度を育む</p> <p>(3)家庭や地域等さまざまな場面でチャレンジする態度を育む</p> <p>◆「教材・教員」の共有、「年間学習計画」の共有（学年ラフスタディ）、「生徒情報」の共有（呉竹教材ラボ）、業務の共有（依頼ボード、金庫後の有効活用）、年間業務の見直し（都度）新学第準備、年間指導計画作成、引継ぎ資料の検討</p>	<p>これまで培った力をもとに、学校・家庭・地域の中での活動を通して社会参加と自立に向けた実用的な力を伸ばす</p> <p>(1)自らの目標の実現に向けて、主体的に考え行動する意欲や態度を培う</p> <p>(2)社会の中で必要なルールやマナーの定着を図り、社会の一員としての意識を高める</p> <p>(3)一人一人の願いの実現を目指して、自己理解・自己選択・自己決定する力を育てる</p> <p>◆毎週金曜日！余暇ろう Day！</p> <p>◆卒業生！リターン Day！</p> <p>◆毎週の清掃日と合わせて教材・教員、職員室資料の整理</p>

- 支援部
- 学校教育目標の実現に向けて、児童生徒の願いを実現するための校内支援を行う
  - 地域における総合支援教育相談センターの核として、地域支援の充実を図る
  - 相談支援機能の活性化を図る土台として、支援部教職員の専門性を高める
  - 校内支援・地域支援への活用に向け、教材教員の整理・分類を行なう
  - ◆会議は30分以内
  - ◆育支援センター業務マニュアルの作成

つながる力・発信する力

- 総務部
- 各々が円滑に連携して業務遂行できるよう、企画・運営面での調整を図る
  - (1)児童生徒・教職員にとって安全で快適な学習環境、職場環境整備を推進する
  - (2)教務一般の業務を迅速に行い、各部の業務が円滑に遂行されるよう努める
  - (3)広報活動を通して、情報発信の活性化を図り、開かれた学校づくりを推進する
  - (4)学校経営計画に基づいた予算の編成と効果的な執行を図る

## 6-1 実現度に関する分析結果〔保護者、教職員〕

保護者（各部/全体）、教職員のアンケート結果より、肯定的な選択項目となる「よくできている」「大体よくできている」の回答を合わせた割合（％）を示す。

質問項目	実現度（％）				
	上段が R6 前期/後期、下段が R7 前期				
	保護者 （小）	保護者 （中）	保護者 （高）	保護者 （全）	教職員
1.学校は、子どもたちの思いや反応をていねいに受け止められている	98/98 98	97/98 91	95/94 98	97/96 97	96/99 99
2.学校は、子どもたちがいろいろな人と関わって活動できるように取り組んでいる	92/96 98	100/97 94	97/98 97	96/97 96	96/97 95
3.学校は、子どもたちが「やってみたい」と思える学習に取り組んでいる	92/98 92	89/92 82	90/88 91	90/93 89	93/93 95
4.学校は、子どもたちが自分なりの方法で思いや考えを伝えられるように取り組んでいる	92/100 98	92/92 91	96/92 94	93/95 95	98/96 93
5.学校は、子どもたちの願いや目指す姿を本人や保護者と共有している	98/94 96	97/95 88	95/94 94	97/94 93	93/90 90
6.学校は、子どもたちが役割を担い、やりがいを感じて活動できるように取り組んでいる	96/96 93	95/94 88	91/94 93	94/95 92	96/98 96
7.子どもたちは、自分なりの挨拶（発声、会釈、瞬き等の反応など）を実践できている	94/93 87	94/94 94	87/92 94	92/93 91	97/97 98
8.学校は、子どもたちがルールや約束を守ることの大切さを学べるように取り組んでいる	96/92 91	92/97 93	96/92 96	95/93 93	93/95 96
9.学校は、お便りやホームページなどを通して日々の教育活動を発信できている	98/95 100	100/98 94	95/92 94	98/94 95	90/91 90
10.学校は、外部関係機関や地域との連携を大切にしている	86/95 87	86/87 80	80/78 83	84/88 84	87/89 91
11.学校は、子どもたちが安心・安全に学べる場となっている	98/100 98	97/98 93	97/92 98	97/96 96	95/96 94

以下は、教職員のみに尋ねた回答結果を示す

12.生活を豊かにする手段として、情報端末機器を積極的に活用している					85/87 85
13.子どもたちが何を学び、何ができるようになったのかを評価し、授業改善につなげている					85/87 92
14.地域の学校園・施設、関係機関からの相談に丁寧に応えられている					77/74 78
15.組織的・効率的な業務の見直しに向けて、意見交換し合える風通しのよい職場である					81/81 85
16.ワーク・ライフバランスを意識できている					73/66 78

#### <項目1～11における分析結果>

##### **✿保護者および教職員からの肯定的回答の平均が高い項目について**

☞項目1について、学校教育目標である「児童生徒の願いを実現する」ことに深く関わっており、子どもたちに寄り添い、その言葉や反応をていねいに受け止める教職員の姿勢は、目標達成のために必要不可欠である。今後も、児童生徒一人ひとりの思いや願いに耳を傾け、しっかりと観察し、共感的な関わりを通して、安心して自己を表現できる環境づくりに努めてまいります。

☞項目2について、今年度より「地域協働プロジェクト」を発足し、地域の学校・園や施設等と連携しながら、子どもたちが多様な人々と関わる“学びの場”の拡充に取り組んでいる。「学校で学ぶ」と「地域で学ぶ」ことの相互作用を通じて、子どもたち一人ひとりの“できる姿”を引き出し、より豊かな学びにつなげていけるよう努めてまいります。

☞項目11について、すべての教育活動の根幹に関わる重要な視点であり、学校全体で継続的に取り組むべき課題である。担任を中心とした学年・学部の連携による日常的な指導・支援に「ていねい」にあたることを基本とし、さらに養護教諭や看護師、スクールカウンセラー等の特別非常勤講師とも協働し、心理的な安心感を提供していくことも、子どもたちが自分らしく過ごしていく上で大切である。また、本校は現在校舎の工事が進行していることから、校内の安全点検や避難訓練の定期的な実施を通じて、物理的な安全確保にも重点を置きながら、子どもたちの安全意識の向上にもつなげていきたい。引き続き緊張感を持ちつつも温かみのある呉竹らしい支援体制で、安心・安全に学べる場の提供を続けてまいります。

##### **✿保護者および教職員からの肯定的回答の割合が、他項目と比較して相対的に低い項目について**

☞項目10について、今年度より「地域支援プロジェクト」を発足し、支援学校が担うセンター的機能である“育支援センター”のさらなる充実を目指し、支援部を中心に日々取り組んでいる。昨年度の“育支援センター”の活動では、地域の学校・園、障害のある子どもの保護者等からの教育相談・就学相談・進路相談が多く寄せられた。これらの相談対応を通じて、地域における支援のニーズの高さと、センター的機能の重要性を改めて認識しているところである。今年度は、こうしたニーズによりの確に応えるため、センター的機能の充実をさらに図るとともに、“育支援センター”の認知度向上にも力を入れており、その一環として、チラシを新たにリニューアルし、地域の学校・園、関係機関等へ配布するなど、情報発信の強化も進めている。今後も、地域との連携を深めながら、誰もが安心して相談できる“育支援センター”の構築を目指してまいります。

<項目 12～16 における分析結果（教職員のみ対象）>

☞項目 13 について、他項目と比較して肯定的回答の割合が高かった。「ウェルビーイングな学校をめざして（2 年次）」という研究テーマのもと、児童生徒の「やってみたい」「なんとかなる」「ありがとう」「自分らしく」といった姿を引き出すことを目指し、自由な発想による授業研究の成果が一定反映されたと考えられる。特に、教職員が深めたい授業内容や引き出したい児童生徒の姿について、共通の思いを持つ教職員同士でグルーピングを行ったことで、主体的に意見交換しながら多様な研究実践につながっている。

今年度は、昨年度の成果を踏まえ、「やってみたい・なんとかなる・ありがとう・自分らしく」の 4 つの因子を授業の視点として取り入れることで、より魅力的な授業づくりと児童生徒のウェルビーイングな姿の実現につながるのではないかという仮説のもと継続的に取り組んでいる。また「幸せの道しるべ（MAP）※参考資料参照」を活用することで、教職員への意識づけを定着させ、様々な授業への般化も可能であると考えている。これらの取り組みが授業改善に反映できるよう、引き続き取り組んでまいります。

☞項目 16 について、他項目と比較して肯定的回答の割合が低く、昨年度よりやや数値があがったものの依然として課題が残る。これは全国的にも共通する傾向であり、教員の長時間労働は喫緊の課題とされている。こうした状況を踏まえ、業務改善の推進や教職員体制の整備・充実を図りながら、「チーム学校」としての機能を高めていく必要がある。また、働き方の見直しと併せて、教職員一人ひとりが“働きがい”を感じられる職場づくりにも力を入れていかなければならない。特に、子育て世代の教職員も多く勤務しており、ライフスタイルに応じた柔軟な対応が求められる中、制度の活用も進んでいる。引き続き教職員が安心して働ける環境を整えるとともに、互いに支え合い、風通しの良い職場づくりを通して、一人ひとりのワークライフバランスの向上を目指してまいります。



## 6-2 実現度に関する分析結果〔児童生徒〕

児童生徒へは、アンケートフォームもしくは紙媒体での回答を求めた。回答は「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」の3段階から選ぶ形をとり、児童生徒の実態に応じて、本人による回答、担任による聞き取り等で回答を行っている。

表では、児童生徒のアンケート結果より、小学部・中学部・高等部の「そう思う」の回答を合わせた割合（％）を示す。

質問項目	児童生徒（全） 上段が R6 前期/後期 下段が R7 前期
1.自分の心や体を大切にしている	68/80 83
2.友達と仲良く過ごしている	89/92 83
3.学校で「やってみたい」と思える活動がある	63/73 70
4.困った時など先生に相談している	70/81 81
5.こんな自分になりたいという願いや夢をもっている	66/69 63
6.学校で決まった役割がある	75/90 84
7.自分なりの方法であいさつができています	75/82 91
8.ルールや約束を守って行動できている	77/86 84
9.授業や活動の内容が理解できている	73/86 86

### <分析結果>

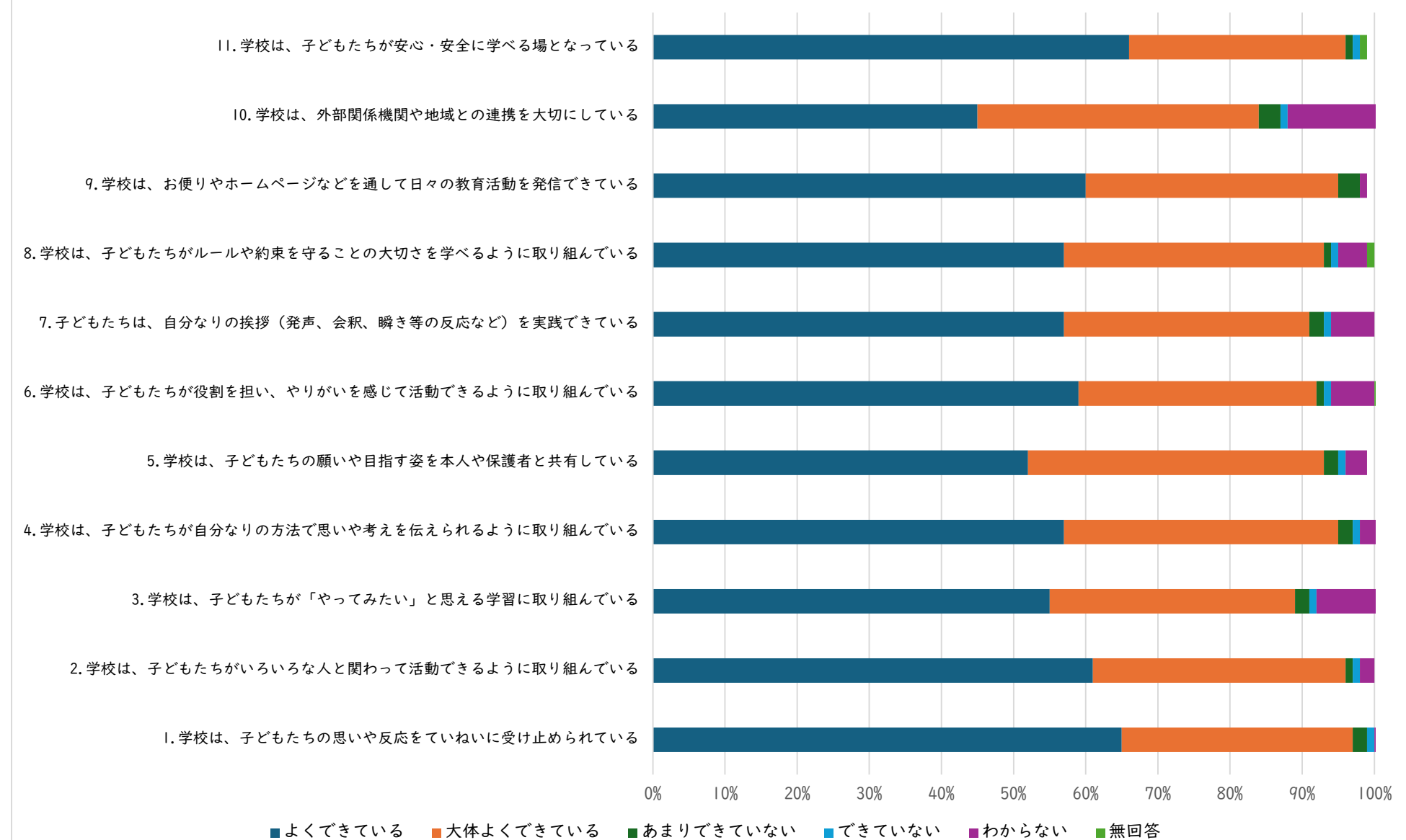
項目1や項目7では、前年度よりも肯定的な回答の割合が増加しており、児童生徒が自己を尊重し、社会的な関わりを意識して行動できている様子がうかがえ、日常的な言葉かけや生活指導の積み重ねが成果として表れているものと考えられる。

一方で、項目2や項目5では、前年度後期と比較してやや肯定的な回答が減少しており、人間関係の形成や自己の将来像に関する指導・支援については、後期に予定されている宿泊学習や修学旅行、学校祭「文化の部」などの学校行事、さらには卒業後の生活を見据えた見学や実習などを通して、継続的な取り組みが求められる。また、項目3や項目6では、児童生徒が主体的に学校生活に関わろうとする姿勢が一定程度見られてはいるが、引き続き高い実現度を目指して取り組んでいく必要が感じられる。

地域協働プロジェクトの発足や、研究にも関連した自由な発想での授業づくり等も通して、地域社会で自分らしく生きていける力を伸ばしていきたい。

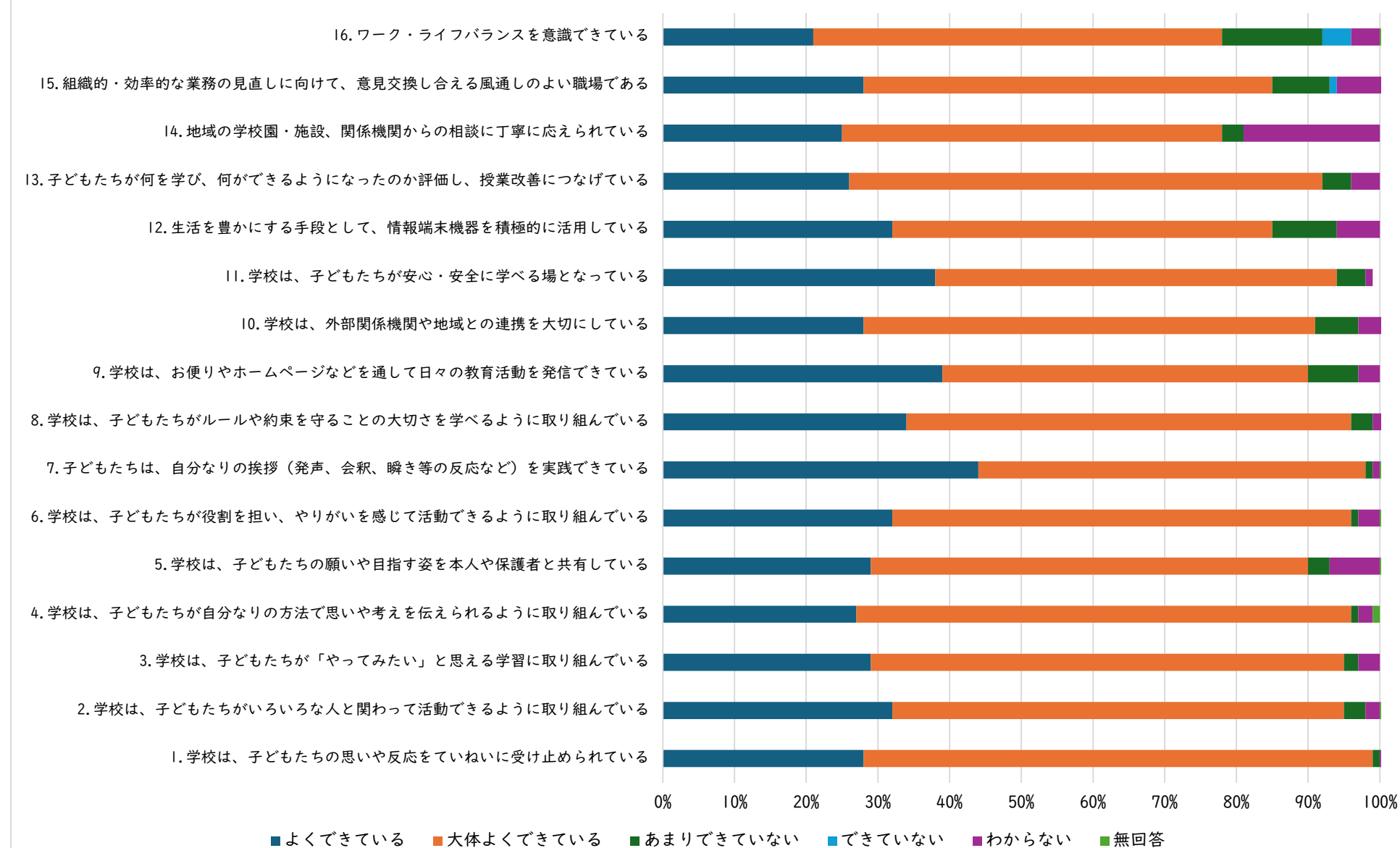
## 7-1 実現度比較

R7前期学校評価アンケート結果〔保護者〕



## 7-1 実現度比較

R7前期学校評価アンケート結果〔教職員〕





## 7-1 実現度比較

